

## はじめに…

子どもが生まれたときに親が願うのは、幸せな一生を送ってほしいというのではないのでしょうか。幸せになってほしいから、今の世の中で必要な学力や学歴を得てほしい。そのために、早期教育を考えたり、知育玩具を与えたり、といろいろと考えます。

今の時代は、子育てに関してもあふれるほどの情報があります。そのなかで、親としては子どもに何をしてやればいいのか、何は必要ないのか、選ぶしなければならなくて迷いつづけます。

私も迷いつづける親の一人ですが、こんな世の中であっても、人としての幸せはあたりまえのことにあるように思います。

一人前の人間として、自分の暮らしをちゃんと営めること。毎日楽しく、心豊かに過ごしていくこと。人と気持ちのいい関係を築き、できれば家族を持って、次の世代を育てていくこと。

そんなあたりまえの幸せは、誰にでも用意されています。でも、そんなあたりまえのことを幸せだと感じ、日々の暮らしに満足して生きる力は、誰もが自然に備えられるものではないように思います。

その力は、親との関係で身につけていくもの。つまり、子ども時代に、家庭の日々の暮らしの中から、身につけていくものなのです。

### ◆家庭でなければ身につかない

学校は教育を与えてくれます。でも、日々の暮らしを営む力は家庭でしか与えることはできません。

自分の生活の場を、清潔に保つ掃除の仕方。おしゃれをして楽しむために、洋服をじょうずにしまい、手入れする方法。家族で楽しい食卓を囲むために、食べたいメニューを考え、おいしく料理し、次の日のために後片づけをする手順。

朝、家族と顔をあわせたら「おはよう」とにこにこし、誰かが帰ってきたら「お帰りなさい!」と出迎える幸せ。次の人が気持ちよくお風呂やトイレを使えるように、自分の後始末をちゃんとする心配り。

それらの、ほんとうに具体的な細やかな作業は、知識として教えられるものでもないのです。親との暮らしから、「こうするものなんだ」と身につき、「こういうことには、こんな豊かさがあるんだ」と体にしみこんでいくものなのではないのでしょうか。



#### ◆10歳までに仕込んであげよう

おそらく多くの親御さんは、生活習慣や家事を子どもに教えなければいけない、とわかっていると思います。

けれども、私が実際に触れた方たちは、意外に子どもにさせていないのです。言葉で「片づけなさい」と言うだけであったり、「まだ危ないから」と料理はさせないでいたり、「汚いから」と子どもが学校に行っているあいだに掃除を済ませたり、「宿題もあるのに、かわいそう」とお手伝いをあとまわしにしたり。

子どもを愛し、大切に思う気持ちからでしょうが、子どもの幸せな一生のためにこそ、小さなうちから仕込んであげてください。とにかく、子どもの手と体を動かさせること。100の言葉よりも、1回の行動のほうが生活習慣や家事は子どもの身につきます。

歩き始め、言葉を話し始めたら、もう家族の一員として扱ってもいいのです。3歳には簡単なお手伝いができます。小学校に入るころには、教えてさえあれば一通りの家事ができます。包丁も、掃除機も、お風呂掃除も、できるのです。

そして、おもしろいことに子どもは一人前扱いされると、嬉しくてがんばります。「私、できる」と一人でやりとげたがります。その力を、伸ばしてあげたいですね。

#### ◆考える力も育む家事

人として、幸せな、豊かな暮らしを営めるように、という願いばかりではありません。脳は、手を使うことで発達することはよく知られています。なるべく小さなうちから、実際の生活に関わることで、手と体を使わせましょう。そして、自分で考えてやりとげさせたり、失敗しても叱らないで

できるまでやり直させたりしてあげましょう。

そんな経験が、ほんとうの意味で考える力のある子に育ててくれます。きっと、社会に出ても力強く生きていける人になってくれるでしょう。

